

令和 8 年度一般選抜 A 個別方式（第 1 期）出題意図

科目名：歴史総合，世界史探究

I （冷戦の始まりから冷戦終結までの国際社会）

「歴史総合」科目の範囲を中心とした出題である。受験生が「歴史総合」科目において教科書でしっかり学習したであろう内容を踏まえて出題した。内容としては，略年表を用いて第二次世界大戦後から冷戦終結に至るまでの重要な出来事理解を問うている。受験生が，朝鮮戦争，NATO 発足，マーシャル＝プラン，スターリンの死など，冷戦初期の諸事象を歴史的に正確に把握しているかを確認した。また，55 年体制に関する文章の正誤判定を通じて，日本政治史の基礎的理解も問うた。さらに，東欧・ソ連圏の動揺に関する理解，冷戦終結期の首脳会談の開催地を問うことで，歴史事象を地図情報と関連づけて理解しているかも問うた。

II （隋・唐）

隋の建国・統一から唐の滅亡に至る政治史の基本理解を問う問題である。略年表をもとに，均田制を背景とする諸制度とその変遷や，変遷の契機を確認する内容を問うた。また，隋の建国・統一，唐の政治・社会的基礎を作り上げた太宗の治世，武韋の禍，安史の乱の背景と影響について正誤判定形式で問うことで，受験生が混乱しやすい複数の歴史事象を相互に関連づけて理解しているかの力を測った。

III （古代ローマ）

古代ローマ史における重要事項を通史的に理解しているかを問う問題である。ローマの建国，共和政，ポエニ戦争，グラックス兄弟の改革，帝政の開始，五賢帝時代と「ローマの平和」，帝国の分裂および西ローマ帝国滅亡，と古代ローマ史全体を扱い，歴史的因果関係と長期的展開の把握を重視した。また文章読解と正誤問題を組み合わせることで，古代ローマの諸制度・社会・对外戦争・文化等を総合的に理解しているかを確認した。

IV （ラテンアメリカ）

ラテンアメリカにおける独立運動から 20 世紀後半に至るまでの政治・社会の変化を，略年表を手がかりに問うことを目的とした。ハイチ革命，ブラジル独立，メキシコ革命，キューバ革命，フォークランド戦争，NAFTA の成立などを取り上げ，当該地域の歴史的展開を概観させる構成とした。また，各設問では人物・制度・出来事に関する正誤判定を通じて，独立や革命の背景とその後の政治体制の変化，冷戦下における国際関係の動きなどについての理解を測った。さらに，選択肢の検討を通じて，出来事の前後関係や関係人物に関する基礎的理解を確認するとともに，パナマ運河の開通時期を年表上に位置づける設問で，重要年代に関する理解を測った。

V （オセアニア・太平洋）

近現代の太平洋地域における探検・植民地化・国際関係の展開を問う問題である。ヨーロッパ人による探検から，オーストラリア・ニュージーランドへの移民の進展，太平洋諸島の植民地化と委任統治，太平洋戦争，APEC・ANZUS のような国際的枠組み，冷戦期の核実験までを扱い，幅広い時代にわたる歴史的変遷の理解を確認した。また，太平洋地域と他地域との関係に着目し，孫文やゴーガンに関する設問を通じて，直接的な関連が見えにくい人物や文化とのつながりを問うことで，多角的な知識の活用力を測った。さらに，太平洋戦争に関する設問では，出来事の前後関係を踏まえた年代的把握を求めることで，歴史事項を時系列の中で正確に位置づける力を評価した。